

統計データ活用学ぶ

県が北高でアナリスト育成講座

八戸



堤静子教授（中央）にアドバイスを受け、統計データの分析に取り組む生徒

統計データを活用できる人材を育成しようと、青森県立八戸北高（種市朋哉校長）で11日、青森県による「次世代の統計アナリスト育成講座」が開かれ、生徒は演習を通して統計について学んだ。

データサイエンスに興味を持つ3年生15人が参加。八戸学院大の堤静子教授が講師を務め、これまで6月13日と同日に同講座を開催。統計データの見方や活用事例について学んできた。

この日は、これまでの学びを基に興味のあるデータを生徒自らエクセルで分析し、結果を考察。学んだことを一人ずつ発表し、理解を深めた。

大学で経営や経済を学びたいという田中萌生さん（17）は「なかなか身近に感じられなかった統計データに触れることができ、貴重な体験になった」と語った。

（才神利奈）